2　医師派遣調整

【総括】

県内外の大学から県内の病院への医師派遣については、医師派遣を希望する病院が大学の各診療科（講座・医局）等に派遣を要請する方法が一般的であるが、同一地域（二次医療圏もしくは隣接する複数の二次医療圏）で特定の診療科の医師が不足している場合は、その地域に位置する複数の病院から同時に派遣要請を受けることも想定される。

大学の立場からみると、地域の医療需要や医療提供体制、今後の需要予測等に加えて、派遣された医師やその家族が生活する地域の情報が必ずしも十分ではない中、限られた医師を派遣することが求められることから、その調整には大変な困難が伴うことが考えられる。

今回は、本講座が実施する調査・分析の一環として、静岡県健康福祉部医療健康局地域医療課が毎年実施している医師数等調査等病院ヒアリングに可能な限り同行し、病院長等の幹部職員と情報・意見交換等を行った。

また、更に調査が必要な場合には、当該病院のホームページや追加訪問により情報収集を行うとともに、必要に応じて所管保健所を訪問し、地域の医療提供体制や関係する医療施設の診療実績等について調査・分析を行った。

今年度の取組みでは、志太榛原医療圏で唯一の救命救急センターである藤枝市立総合病院（以下、病院）において、次年度以降、小児科の診療体制の維持が極めて困難な状況にあることが明らかとなった。

そのため、本講座が調査・分析を行い、その結果を病院及び病院が医師派遣を打診していた本学小児科学講座に提供した。これらの情報は、志太榛原医療圏を所管する静岡県中部保健所が開催する志太榛原地域医療構想調整会議において病院から報告され、圏域の医療関係者や市町担当者で情報を共有した結果、「志太榛原医療圏の小児医療の崩壊を防ぎ、地域医療を確保するため、藤枝市立総合病院での小児科医師の確保が必要である」との認識で一致した。

最終的に、平成31年度（2019年度）から、本学小児科学講座から病院に指導医を含む複数の常勤医師が派遣され、小児科の診療体制が維持できることとなった。

以上の経緯等について、藤枝市立総合病院、浜松医科大学小児科学講座及び地域医療支援学講座、静岡県中部保健所の４者による合意の下、「志太榛原医療圏における地域医療支援の取組」として取りまとめた。（次ページ以降参照）

以下の報告は、県が本講座の設置に当たりイメージしていた「地域医療支援調整委員会」の設置・運営の在り方について県庁担当者と協議する中で構成員として想定した、①派遣先病院、②派遣元大学医局、③調整担当（本講座）、④保健所（地域代表）の４者による医師派遣における調整の状況を取りまとめたものである。

今後は、今回の取組みや医師確保計画の策定における議論等を踏まえつつ、本講座における支援調整の在り方を模索していきたい。

平成 31 年 3 月 25 日

志太榛原医療圏における地域医療支援の取組

（対象施設・診療科：藤枝市立総合病院・小児科）

1　概　要

人口当たり医師数が県平均を大きく下回る志太榛原医療圏で唯一の救命救急センターである藤枝市立総合病院において、大学からの医師派遣の減少に伴う小児科医師の不足・高齢化が喫緊の課題となっていた。

そのため、病院が医師確保に努めるとともに、浜松医科大学地域医療支援学講座が圏域内の小児医療の現状を分析・評価し、その結果を病院及び同大学小児科学講座に提供した。並行して、圏域の地域医療構想会議でこれらの情報が共有され、地域の医療提供体制を維持するためには同病院での小児科診療の継続が必要であることが確認された。

最終的に、平成 31 年４月から、同大学の小児科医師４人が藤枝市立総合病院に派遣され、常勤医師５人体制で小児科の診療体制が維持できることとなった。

2　経　緯

（1）志太榛原医療圏の医師数と小児の医療提供体制

志太榛原医療圏は、人口 10 万人当たり医療施設従事医師数（以下、医師数）が 155.3 人（平成 28 年 12 月 31 日現在、以下同じ）と、全国平均 240.1 人に比べて医師数が少ない静岡県全体の 200.8 人を更に大きく下回り、医師数が少ない地域[*1]である（表１、表２）。また、同圏域は、医師数の年次推移をみると、その増加傾向が県全体から遅れ、かつ、増加率が下回っている地域[*1]である（図１、図２）。そのため、圏域内の各病院では、診療体制を維持するための医師確保に大変苦慮してきた。

このうち、小児科医師[*2]については、15 歳未満人口当たり医師数は 76.6 人と、全国平均の 107.3 人、県全体の 85.8 人を下回っており[*1]（図３）、その年次推移をみても、増減を繰り返しながらほぼ横ばいの状態にある[*1]（図４）。

同圏域の小児の医療提供体制は、休日・夜間の救急患者を常時受入可能な焼津市立総合病院と藤枝市立総合病院を中心に、市立島田市民病院と榛原総合病院が比較的軽症の入院患者を受け入れているほか、病院・診療所が外来診療を行っている[*3]。また、圏域内で対応困難な場合は、静岡県立こども病院が後方支援病院の役割を担っている。

しかしながら、圏域内で小児患者が入院可能な４病院では、平成 30 年４月時点で、いずれの病院も小児科医師の定数を満たしておらず[*4]（表３）、慢性的な小児科医師の不足状態にあった。

（2）藤枝市立総合病院小児科の状況

志太榛原医療圏で唯一の救命救急センターである藤枝市立総合病院では、（1）に示したように、小児科医師の定数に対する充足率が低く、また、定年退職後の嘱

託医を含む常勤の小児科医師の過半数は 60 歳以上であった[*5]（表３）。このため、平日の診療時間内診療や夜間・休日の日当直や呼出待機では、外部からの応援医師への依存度が高くなっている[*5]（表４）。

一方、同圏域の救急医療体制については、各病院のかかりつけ患者等を除き、圏域内の６市町及び４郡市医師会から構成された公益法人の運営による救急医療センターが初期救急患者の受け入れを行い、必要に応じて二次救急医療機関を紹介する体制となっている。平成 29 年度は、月２～３人程度の小児救急患者が同病院に転送されていた[*6]（表５）。

このような状況の中で、同病院では、小児科医師の退職や高齢化等によるマンパワーの低下の影響もあり、小児科の入院患者数が数年間で大きく減少した[*7]（表６）。さらに、平成 30 年度末には常勤医師の定年退職や異動が見込まれたことから、平成 31 年度以降の小児科の診療体制の維持が極めて困難な状況にあることが明らかとなった。

３　医師確保の取組と圏域の医療提供体制の地域での情報・認識の共有

（１）医師確保の取組

藤枝市立総合病院（以下、病院）の小児科は、従前は主に東京大学から常勤医師の派遣を受けてきた。その後、浜松医科大学から複数の医師の派遣を受けていた時期もあったが、諸般の事情から、平成 30 年度８月時点での常勤医師は、東京大学出身の医師（嘱託医を含む）と県立こども病院から派遣された専攻医で構成されていた[*4]。しかしながら、平成 31 年度以降、東京大学や県立こども病院からの医師派遣は見込めない状況にあった。

病院は、これまでも浜松医科大学（以下、大学）に小児科医師の派遣を要請してきたが、平成 31 年度以降の小児科の診療体制を確保するため、改めて大学に派遣を再開するよう要請した。

一方、大学では、県内の複数の病院から医師派遣の要請を受けており、派遣先の選定に大変苦慮していた。大学としては、派遣した医師が過大な負担を強いられることなく診療能力を十分発揮し、若手医師にとってもキャリア形成につなげることができるようにするため、派遣の検討に当たり、要請があった病院の診療体制や当該病院が位置する地域での小児医療の提供体制や現状を把握することは大変重要であった。

（２）圏域内の小児医療の現状及び小児科領域の研修体制等の分析・評価

浜松医科大学地域医療支援学講座（以下、講座）は、静岡県における医療需要等の調査・分析を行うとともに、医師不足地域における研修体制を充実させることにより、県内の医師の偏在解消を図るため、平成 30 年度に県の寄附講座として設置された。

今回は、志太榛原圏域での小児の医療提供体制の現状について分析・評価を行い、藤枝市立総合病院における小児科の診療体制や、病院の志太榛原医療圏の小児医療における位置づけ、さらに小児科領域の研修体制における役割について検討した。

ア　圏域内の小児医療の現状

２（１）、（２）に示したように、藤枝市立総合病院は志太榛原医療圏で唯一の救命救急センターであり、焼津市立総合病院とともに小児急性期病棟を有し[*8]、志太榛原医療圏における夜間・休日の救急患者を常時受け入れている。

また、両病院とも新生児集中治療室（ＮＩＣＵ）を有し[*8]、県指定の「地域周産期母子医療センター」として、地域の産科・産婦人科診療所や静岡県立こども病院とも連携してハイリスク分娩にも対応するなど、周産期医療において地域の中核的な役割を担ってきた[*3]。

さらに、両病院では乳幼児健診や予防接種を実施しているほか、各種専門外来を開設し、静岡県立こども病院等と連携して、小児科領域における母子保健事業や疾病予防・専門医療を提供している。

このほか、両病院とも県指定の「災害拠点病院」として、大規模災害発生時には周産期・小児医療の中核的な機能を担うことが期待されている[*3]。

このように、藤枝市立総合病院は、焼津市立総合病院とともに志太榛原医療圏における小児医療の中核的な役割を担っており、地域医療を確保する上で不可欠な存在である。

イ　小児科領域の研修体制

アに示したように、藤枝市立総合病院は、焼津市立総合病院とともに静岡県立こども病院等と連携し、志太榛原医療圏で小児科領域の専門医療を提供しており、公益社団法人日本小児科学会をはじめ各種学会の専門医等の研修施設に認定[*9]され、小児科領域の研修体制が充実している。

また、両病院とも、厚生労働省が認定する「臨床研修病院（基幹型）」あるいは浜松医科大学等の大学病院の連携施設（いわゆる「たすき掛け」研修施設）として毎年多数の臨床研修医を受け入れ、小児科領域での充実した研修が実施できる体制にある[*9,10]ことから、小児科専門医を目指す専攻医に限らず、若手医師にとって貴重な経験を積む場となっている。

（３）地域での情報・認識の共有

静岡県では、平成27年度に地域医療構想を策定し、将来のあるべき医療提供体制の構築に向け、原則二次医療圏単位で設定された構想区域ごとに地域医療構想調整会議を設置し、病床の機能分担・連携や地域の実情に応じた医療の課題等について協議を重ねている[*11]。

志太榛原地域医療構想調整会議（以下、調整会議）では、平成30年度の第２回調整会議以降、浜松医科大学地域医療支援学講座が作成した資料を活用して、藤枝市立病院から小児科診療の現状や今後の診療体制の見通し等について報告を受け、圏域の医療関係者や市町担当者で情報を共有した[*12]。

調整会議では、出席した医療関係者から強い危機感が表明され、現在は２病院で受け入れている小児の救急・入院患者の焼津市立総合病院への集中による医師の疲

弊から予測される志太榛原圏域の小児医療の崩壊を防ぎ、地域医療を確保するため、藤枝市立総合病院での小児科医師の確保が必要であるとの認識で一致した*12。

4　結　果

以上のように、藤枝市立総合病院は、焼津市立総合病院とともに志太榛原医療圏における小児医療の中核的な役割を担っており、地域の関係者からは、今後もその役割を担うことが期待されている。

また、同病院は、全国に比べて少ない静岡県の小児科医師を育成する研修施設としても重要な役割を担っている。

このような経緯等を踏まえ、浜松医科大学小児科学講座では、平成31年4月から小児科医師を4人派遣することを決定し、藤枝市立総合病院では、継続して勤務する常勤医師1人と合わせて計5人の小児科医師が確保できることとなった。

これらの取組により、これからも、藤枝市立総合病院が志太榛原医療圏における小児医療の確保と静岡県における小児科医師の育成に大きく寄与することが期待される。

5　出典等

*1　厚生労働省ホームページ：「医師・歯科医師・薬剤師調査」
*2　厚生労働省ホームページ：「医師・歯科医師・薬剤師調査」のうち「小児科を主たる　診療科とする医師」
*3　静岡県健康福祉部医療政策課ホームページ：「第8次静岡県保健医療計画」、各病院ホームページほか
*4　静岡県健康福祉部地域医療課：「平成30年度 医師数等調査」
*5　浜松医科大学地域医療支援学講座による藤枝市立総合病院へのヒアリング調査結果
*6　公益社団法人 志太・榛原地域救急医療対策協会：「志太・榛原地域救急医療センター 業務概要・診療統計 平成29年度」
*7　藤枝市立総合病院ホームページ：「患者統計」
*8　静岡県健康福祉部医療政策課ホームページ：「平成29年度 病床機能報告」
*9　藤枝市立総合病院ホームページ：「各種機関指定」
*10　ふじのくに地域医療支援センターホームページ：「静岡県臨床研修病院一覧」ほか
*11　静岡県健康福祉部医療政策課ホームページ：「地域医療構想」、「地域医療構想調整会議」
*12　静岡県中部健康福祉センター地域医療課ホームページ：「志太榛原地域医療構想調整会議」